

LICENSED PRODUCT  
Black  
3/Color  
White  
Magenta  
Red  
Yellow  
Green  
Cyan  
Blue

招源實志  
三

18  
1580  
3

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20  
JAPAN  
TAJIMA



曲調園遊

父越後守  
此武部  
為時  
之任国

人々  
たれ  
七也

りその候  
為の身

門 遠 13  
號 1580  
卷 3

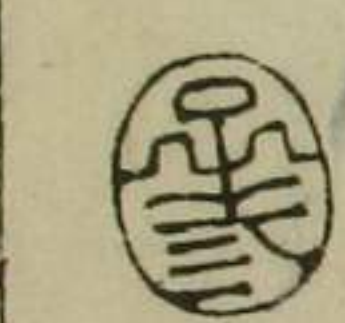


實此紫の實なる摘は紫式部の藤原為時女兄中勝  
 て文学不頼敏諸藝不達情ふく篤実温行の賢  
 婦より右衛門権佐宜孝小嫁大貳三位越後弁の二女  
 と産宜孝早物故に京極の家小寡居後上東門  
 院の中宮に居たり宮仕白氏文集の樂府と教せられたる  
 久るさるの日本紀局と倭名つけられ又御堂殿の懸想一  
 中に貞操正しく後家立きり無皇不生と送りすや  
 善善障新糸と岩越と號けり夫の前も小頼と俗款  
 一と虚譚と石山と源氏と作初其語の罪也地獄小墮  
 一と説説とこれ外外記をことり假令日記の本文を  
 そのま遺漏むゆりさるる一編編足るべし尚世幾編も  
 長く續くと主とこれ北人源氏と作けり種ふれと思  
 實統先第一の渡殿の事ありりふ並び弘徽殿の御寵



遇失させたまふ前後のさる桐壺の更衣の准扱に必要と童蒙中の  
 知せしはうさの筆序掛巻も可畏き  
 華山法皇の御一代記二二帙及びりる采花の浦の別須  
 磨明石の面影あれ式部と宜孝小邊せ後又一二帙の伊周公の流  
 罪のありも虚誕がら演義と次々作べし此編の画面もあつて  
 紫の本色と損下たれと始終佛をつき守るとた名実兼計の戯作  
 のあるまふ似る紫の同色とも四天小母と耶素輔と立者強  
 盗かぎ出さる戯作の花ハテ花が用ねが實なるぬふこと  
 大蟹の日本紀里載れ阿闍梨のり以下皆根が一話あり  
 道兼主の扇のり砂石素小出保浦の幻術又藤久の愛童奇童  
 九のりるんたふあつともる空言で実の女所の別と強くして  
 心あふ心あふ詐とて花のり新羅髪と存るの采花物語本文

癸丑春



笠立亭仙果識



侍女少将

大齋院選子内親王

豊后守

中将の局

式部丞惟規















〇まかりたまひあやしく  
 かとばかりかたむけりたひと  
 このあやしくおそれたるもの  
 さうあやしくおそれたるもの  
 ひさしあやしくおそれたるもの  
 ののろみのいひとあやしく  
 つかたれはあやしくおそれたるもの  
 せよとあやしくおそれたるもの  
 さうあやしくおそれたるもの  
 人のあやしくおそれたるもの  
 まよひあやしくおそれたるもの  
 さうあやしくおそれたるもの  
 つかたれあやしくおそれたるもの  
 せよとあやしくおそれたるもの  
 さうあやしくおそれたるもの  
 人のあやしくおそれたるもの  
 まよひあやしくおそれたるもの  
 さうあやしくおそれたるもの  
 つかたれあやしくおそれたるもの  
 せよとあやしくおそれたるもの  
 さうあやしくおそれたるもの  
 人のあやしくおそれたるもの  
 まよひあやしくおそれたるもの  
 さうあやしくおそれたるもの  
 つかたれあやしくおそれたるもの  
 せよとあやしくおそれたるもの



〇まかりたまひあやしく  
 かとばかりかたむけりたひと  
 このあやしくおそれたるもの  
 さうあやしくおそれたるもの  
 ひさしあやしくおそれたるもの  
 ののろみのいひとあやしく  
 つかたれはあやしくおそれたるもの  
 せよとあやしくおそれたるもの  
 さうあやしくおそれたるもの  
 人のあやしくおそれたるもの  
 まよひあやしくおそれたるもの  
 さうあやしくおそれたるもの  
 つかたれあやしくおそれたるもの  
 せよとあやしくおそれたるもの  
 さうあやしくおそれたるもの  
 人のあやしくおそれたるもの  
 まよひあやしくおそれたるもの  
 さうあやしくおそれたるもの  
 つかたれあやしくおそれたるもの  
 せよとあやしくおそれたるもの

〇まかり  
 たまひあやしく  
 かとばかりかたむけり  
 たひと

〇まかり  
 たまひあやしく  
 かとばかりかたむけり  
 たひと



〇まかり  
 たまひあやしく  
 かとばかりかたむけり  
 たひと

〇まかり  
 たまひあやしく  
 かとばかりかたむけり  
 たひと

三ノ目 三ノ目 三ノ目  
 うつろひて  
 たれもあらた  
 十九世に於て  
 大にそのありは  
 久しくなれど  
 夫れはすむ  
 してはならぬ  
 大にそのありは  
 久しくなれど  
 夫れはすむ  
 してはならぬ



三ノ目 三ノ目 三ノ目  
 うつろひて  
 たれもあらた  
 十九世に於て  
 大にそのありは  
 久しくなれど  
 夫れはすむ  
 してはならぬ  
 大にそのありは  
 久しくなれど  
 夫れはすむ  
 してはならぬ

集解  
 此の巻の  
 事は  
 三ノ目  
 の山  
 の山  
 の山  
 の山  
 の山



三ノ目 三ノ目 三ノ目  
 うつろひて  
 たれもあらた  
 十九世に於て  
 大にそのありは  
 久しくなれど  
 夫れはすむ  
 してはならぬ  
 大にそのありは  
 久しくなれど  
 夫れはすむ  
 してはならぬ

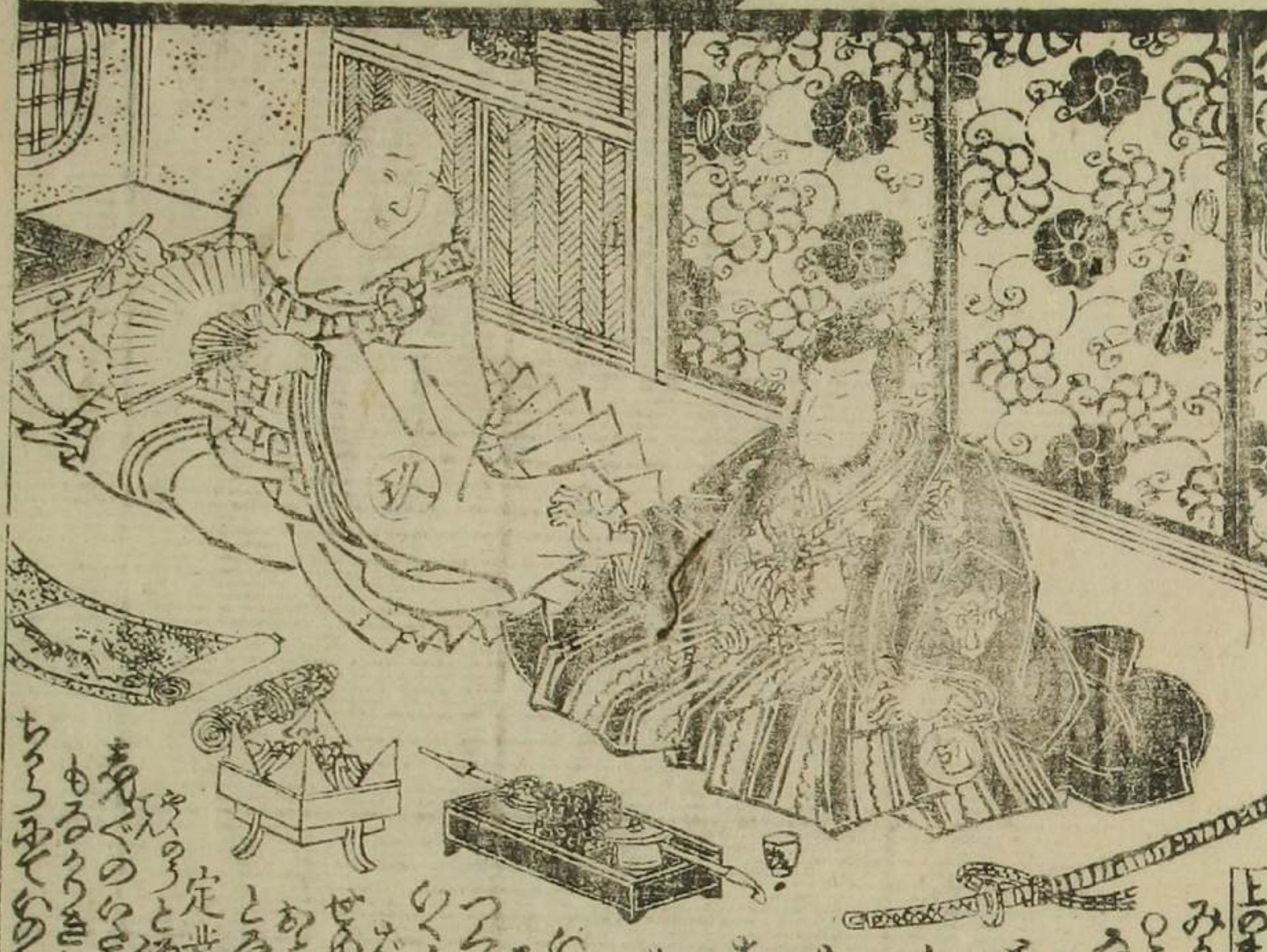


三ノ目 三ノ目 三ノ目  
 うつろひて  
 たれもあらた  
 十九世に於て  
 大にそのありは  
 久しくなれど  
 夫れはすむ  
 してはならぬ  
 大にそのありは  
 久しくなれど  
 夫れはすむ  
 してはならぬ

○そふしだしの中を  
 とのちみちもあつち  
 かすもあつちあつち  
 ねとまきかへていさ  
 きたさこゝろくちん  
 けりひつりて人あはち  
 ひろのちのちあつち  
 あつちのあつちあつち  
 たつちあつちあつち  
 ちつちあつちあつち  
 ちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち



○ちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち

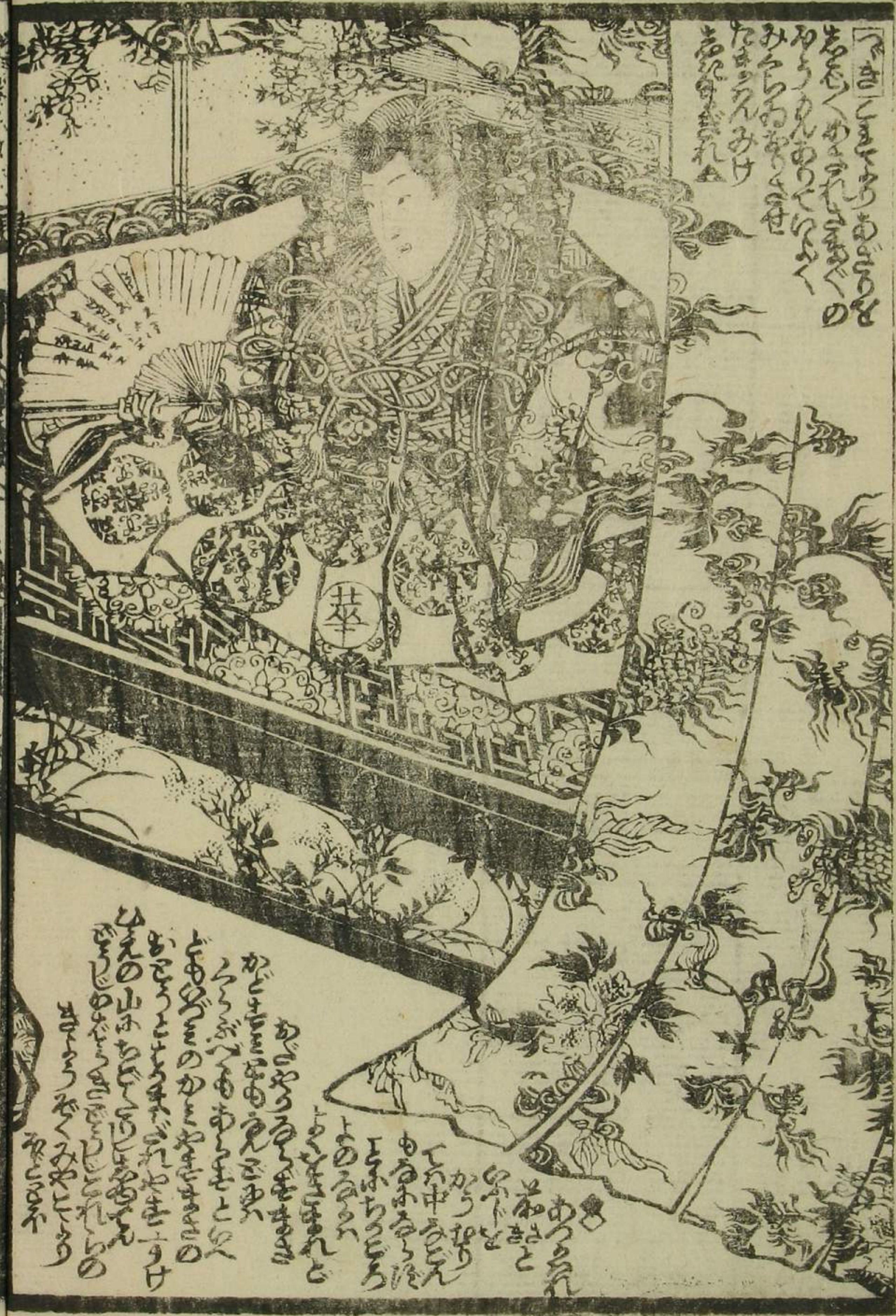


○ちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち

○ちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち  
 のちつちあつちあつち



此の山は...  
 花の...  
 春の...  
 秋の...  
 冬...  
 夏...



此の山は...  
 花の...  
 春の...  
 秋の...  
 冬...  
 夏...

此の山は...  
 花の...  
 春の...  
 秋の...  
 冬...  
 夏...



此の山は...  
 花の...  
 春の...  
 秋の...  
 冬...  
 夏...









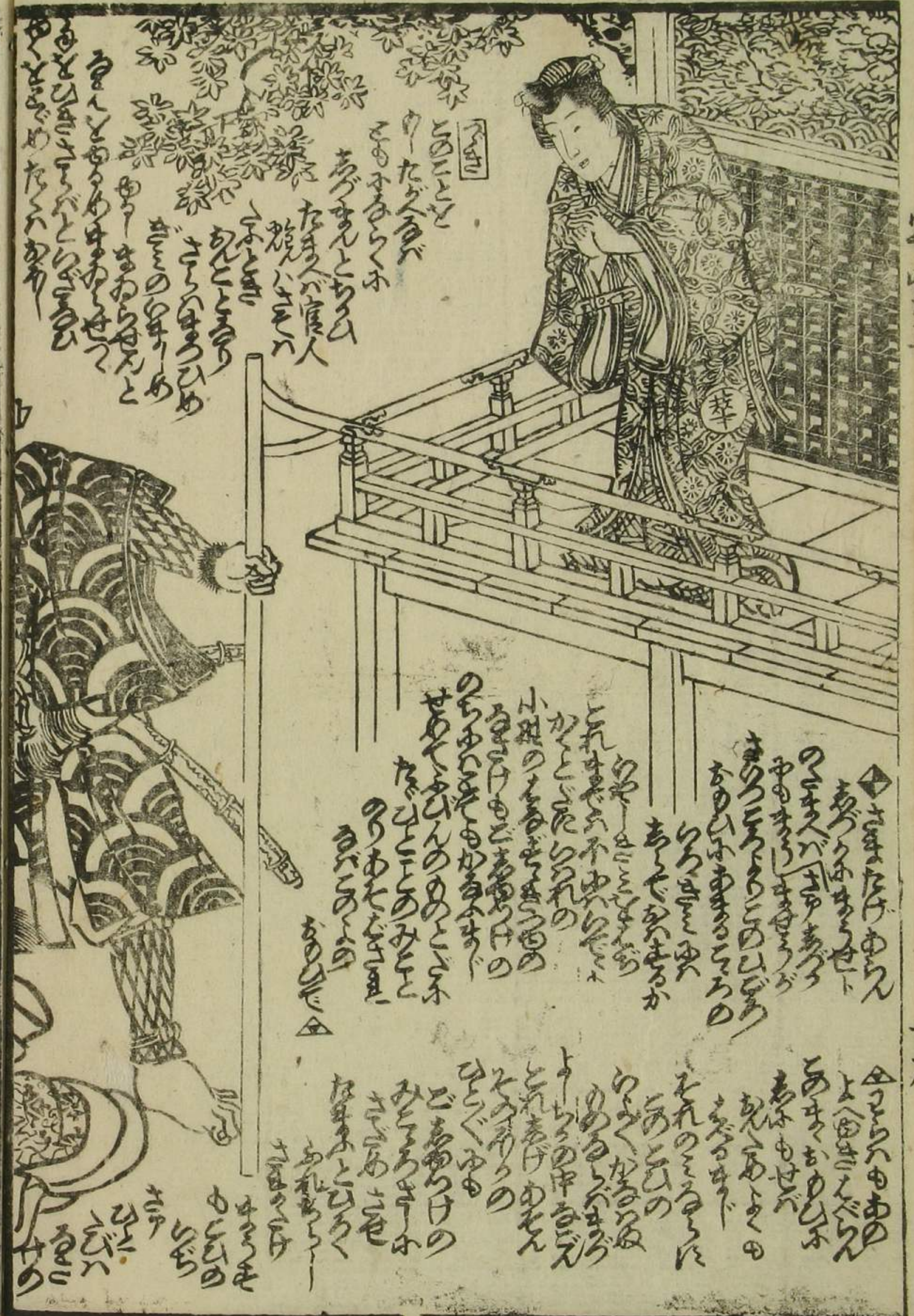








女はさういふ言はれをきか  
 せしめしむるにや  
 女はさういふ言はれをきか  
 せしめしむるにや  
 女はさういふ言はれをきか  
 せしめしむるにや



女はさういふ言はれをきか  
 せしめしむるにや  
 女はさういふ言はれをきか  
 せしめしむるにや

女はさういふ言はれをきか  
 せしめしむるにや  
 女はさういふ言はれをきか  
 せしめしむるにや



